



イヌガシ	<i>Neolitsea aciculata</i> (Blume) Koidz.	絶滅危惧Ⅱ類
		クスノキ科
選定理由	県内では産地に限られる稀な植物で、一箇所の生育地での消滅が県内個体の絶滅に直結するため。	写真(岐阜県博物館) 標本
形態の特徴	常緑高木。樹皮は暗褐色、皮目は丸い。当年枝は緑色。葉芽は披針形。花芽は円球形。葉は短い葉柄があり、枝先に集まる。葉身は長楕円状倒披針形-長楕円状倒卵形、鋭尖頭-鋭頭、基部はくさび形、全縁、三行脈、上面はやや光沢がある灰緑色で無毛、下面は粉白色-白色、無毛か圧毛を散生。3-4月、無柄の集散花序に10花弱が着く。花被片4、暗赤紫色。果実は広楕円球形、秋に紫黒色に熟す。	
生態的特徴	暖地の広葉樹林に生える。南西日本ではやや普通。	
分布状況	関東南部以西の本州、四国、九州、琉球に分布。朝鮮。県内では県南の南部の丘陵地に稀に分布する。	
減少要因	山林管理の停滞に起因する樹林化、林冠の鬱閉化のため生じる日照不足からの生育不良。	
保全対策	山林管理の促進による林床照度の維持。	
特記事項	シロダモに似ている。早春の暗赤紫色の花か秋の紫黒色の実を確認できれば確実だが、葉だけだとシロダモでもイヌガシと似た形態のものがあ、区別は困難な場合がある。	
参考文献	Flora of Japan. Volume II a. Angiospermae Dicotyledoneae Archichlamydeae(b). 2001. KODANSHA. Edited by Kunio Iwatsuki David E. Buufford and Hideaki Ohba. Lauraceae H. Ohba	

文責: 高野裕行